

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

地球温暖化、脱炭素化対策で森林の価値も見直されている。まず林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立のため熊本県版育成経営体になり、地域林業をリードする企業を目指す。そのため機械化と人材確保、育成は急務であり、積極的に投資していく。さらに顧客第一を旨とし、関係企業、行政機関と連携し、林業関連産業の再生と山村振興に寄与していく。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☒ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	地球温暖化、脱炭素対策に貢献する森林の適切な管理と、その有効活用による成長産業化	・熊本県版育成経営体の選定 2023年未登録 →2026年 選定 ・森林管理面積 2023年9ha →2026年24ha(+15ha) ・植林本数 2023年12000本 →2026年32000本 (+2万本)
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	最新鋭の林業機械の導入による労働環境の整備と生産性の向上	・林業用機械(フェラーバンチャ等)の導入 2023年2台→2026年4台(+2台)
☒ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	担い手となる地元若年者の雇用と人材育成	・若年者新規雇用 2023年6名→2026年12名(2023年比6名増)

<パートナーシップ>

林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を推進するため、地域林業をリードする企業として従来に増して関係企業、行政機関と連携を密にし、社員一丸となって相乗効果を上げ、林業関連産業の再生による山村の振興に寄与していく。

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
 ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
 ・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☒ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	・地球温暖化、脱炭素対策に貢献する森林の適切な管理と、その有効活用による成長産業化 ・植林事業に対し建設事業の割合が増加したため、達成率は60%に留まった	県版育成経営体に選定される。 森林管理面積を3年で15ha拡大。新たに2万本植林	育成経営体未選定 森林管理面積2023年現在9ha 2023年現在植林本数12000本
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	最新鋭の林業機械の導入による労働環境の整備と生産性の向上	3年で伐木機械(フェラバンチャ)を2台導入	林業機械(伐木フェラーバンチャ) 2022年1台 2023年1台 計2台導入 達成
☒ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	担い手となる地元若年者の雇用と人材育成	3年で若年者新規雇用6人	新規雇用 2022年 2名 2023年 4名 計6名達成

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。